

※「もっと知りたいふるさと」のバックナンバーは千曲市ホームページでご覧になれます。

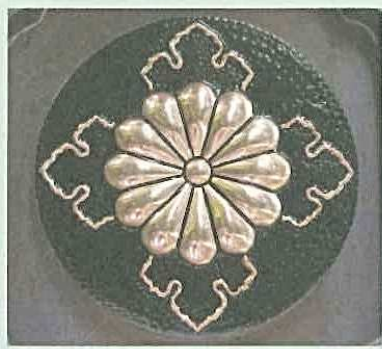
もっと知りたいふるさと

(58)

治田神社

昔、大和朝廷は、政治の役職を臣、神社関係の役職を連として全国を統一していました。第21代雄略天皇（伊勢神宮に外宮を祀った天皇）8年（463）、近江の国の小豪族熊田氏が、治水、開墾、稲作技術に優れた功績があったとして、「治田の連」の称号を与えられ当地に赴任、治水と食糧事情向上をはかりました。他には第26代継体天皇の御世（530頃）との説があります。継体天皇が近江の国の出身で他の皇位継承者を倒して皇位を奪い、同国出身の熊田氏が取り立てられたという説です。

治田の語源は、荒地を開墾してできた田を墾田と呼び、稲作ができ、管理される田を



社紋

治田ということからきています。そして、熊田氏が治田山中腹に先祖の、第9代開化天皇の第二皇子「彦坐命」を祭神にして祀ったのが治田神社の始まりといわれています。神社の社紋は当初14枚の菊の紋でしたが、武田軍の信濃侵略が始まり菊の葉を4枚付けて菱形にし、紋に傷をつけたとして花弁を12枚に減らしたのが現在の紋です（彦坐命は第10代崇神天皇の弟です）。

主神の名は、彦（山彦の彦で返る）、坐（人が2人土の上、命（生命）と読めるので、子宝を意味し、縁結び子孫繁栄を祈ったとも考えられます。延喜5年（905）醍醐天皇の勅により政治と祭事の仕方を統一するよう「式」の編纂が始まりました。これが「延喜式」です。延長5年（927）に完成した式の中に「延喜式神名帳」があり、勅に基き祭事を行っている全国20000社程の神社名が列記されていますが、治田神社はその1社です。

治田神社は桑原に上の宮、稲荷山に下の宮があります。主神は彦坐命で同じですが、

武田の影響を受けて上の宮には諏訪大社の建御名方命と妃の八坂刀売命を奉じ、下の宮には倉稻大神（宇迦之御魂命）も奉じお諏訪さんの兄弟である事代主命（恵比寿様と同一視される）をお祀りしています。慶長3年（1598）徳川家により上杉家が会津に移封された際、当時の神職宮本家も同行。慶長13年後任の児玉家が着任し、以後400年間神社を守ってきました。

明治14年（1881）、上の宮と下の宮が郷社に指定され、明治33年（1900）、下の宮が県社に昇格、延喜式内社として平成2年（1990）、神社本庁より献幣使参向神社の指定を受け、毎年秋の例大祭には随員を伴い、当地の平穩

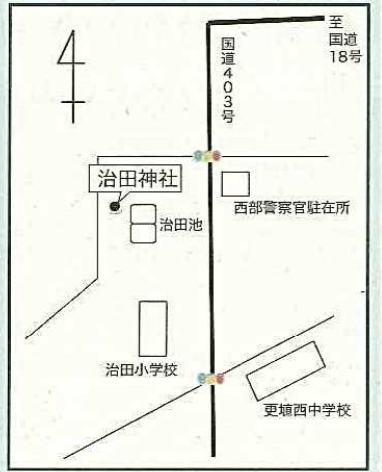


治田神社 奥に本殿

無事・五穀豊穣を祈願していただいております。

下の宮の現本殿は寛政2年（1790）、拝殿は大正6年（1917）の築造です。近隣では珍しく真東に向けて建てられており、元宮が真後ろの設計です。春秋の2回、お彼岸のお中日には太陽が鳥居の中心に昇り、前の池（治田池）に映った太陽の光が本殿の大鏡を照らします。生命の源、太陽の恵みを充分取り入れた神様パワーを感じる神社です。日の出の写真は稲荷山公民館と桑原の「竹林の湯」に展示しておりますのでご覧ください。

治田神社下の宮氏子総代長 高村 征弘



神々しいお彼岸の日の出